

Premiere Pro サイドテロップ作成ガイド

レトロな雰囲気を感じさせる「ベベル風」デザインの作り方（図解）



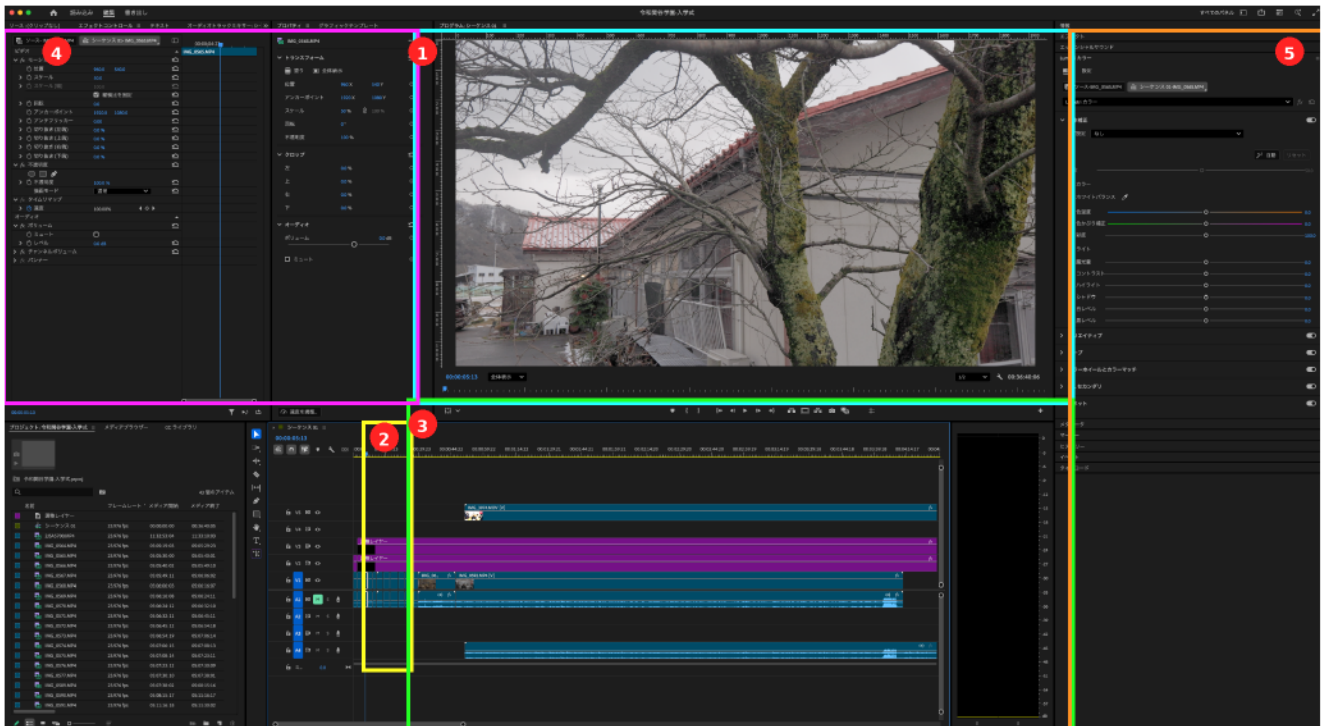
この資料でできること：

- ・サイドテロップの基本構造（文字＋背景帯）を作る
- ・ベベルエッジで“ 厚み ” を付ける（文字だけに適用する方法）
- ・疑似ベベル（レイヤー複製）でレトロに仕上げる
- ・スライドイン／アウトの基本アニメーション

1. まずは編集画面の「触る場所」を把握する

下の図は、いただいたPremiere

Pro画面をベースに、サイドテロップ作成でよく使う場所を番号で示したものです。



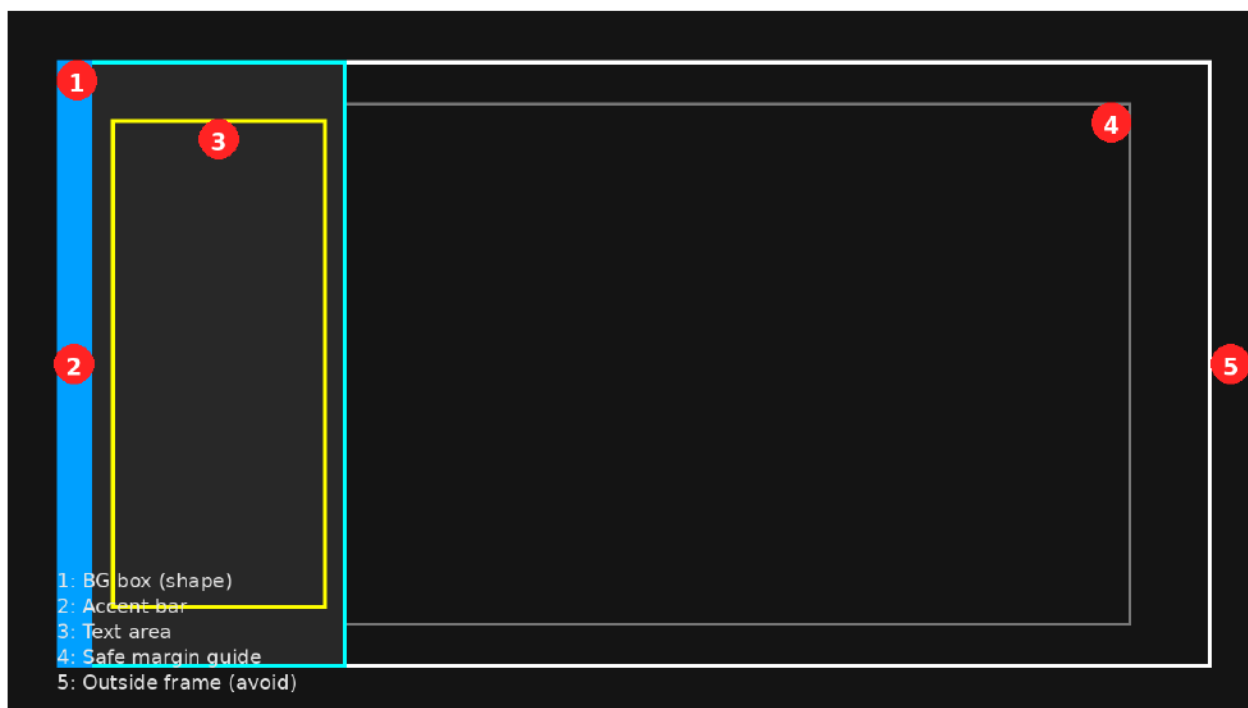
番号	何をする場所？	ここでやること（サイドテロップ）
1	プログラムモニター	テキストツールで直接入力／位置と読みやすさを確認
2	ツール	テキストツール（T）を選ぶ
3	タイムライン	テロップ（グラフィック）を置く／尺を調整／複数レイヤーで重ねる
4	エフェクトコントロール	位置・スケール・不透明度・キーフレーム（動き）
5	プロパティ／エッセンシャルグラフィックス	フォント、塗り、線、影、図形（背景帯）、整列

2. サイドテロップの基本の作り方（文字＋背景帯）

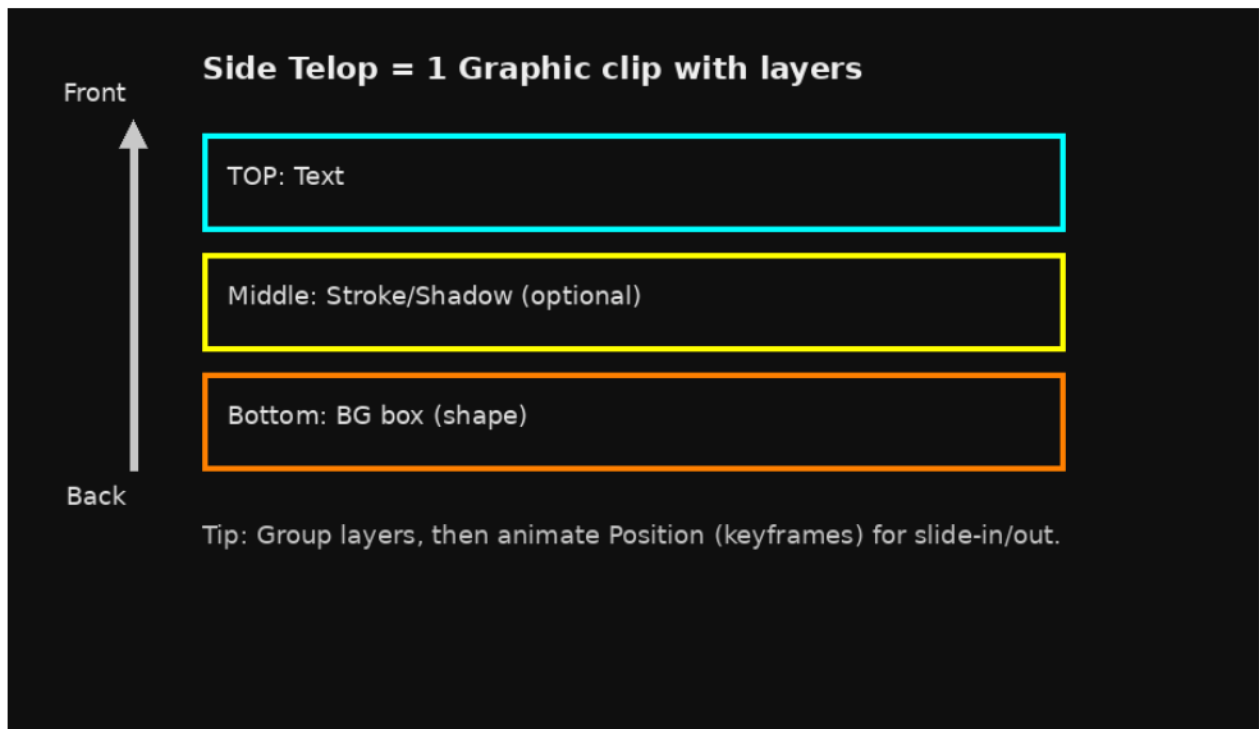
最短で作る流れは「文字を置く → 背景帯（四角形）を敷く → レイヤー順を整える」です。

手順	操作（クリック順）	ポイント
1	テキストツール（T） → プログラムモニターをクリック → 文字入力	短い見出しほど大きく。長文は2～3行に分ける。
2	タイムライン上のグラフィックを選択 → プロパティで「四角形（背景）」を追加	背景帯は“読みやすさ”のため。透明度を少し下げてもOK。
3	レイヤー順を「背景（下）／文字（上）」にする	順番が逆だと文字が隠れます。
4	位置合わせ：端からの余白を一定に（Safe Marginの内側推奨）	端ギリギリは端末によって切れやすい。

レイアウトの目安（図解）



レイヤー構造の目安（図解）



ここで押さえるポイント

- ・基本は「背景（下）→ 文字（上）」の順番。
- ・ベベルエッジを“文字だけ”に掛けたい場合は、背景帯と文字を別クリップに分ける（後述）。
- ・複数行のテロップは、行間を詰め過ぎない（読みやすさ優先）。

3. レトロな「ベベル風」に仕上げる

Premiere Proのテキスト設定だけでも、縁取り（Stroke）＋影（Shadow）で“ 厚み” は出せます。さらに「ベベルエッジ」エフェクトを使うと立体感が強くなります。

おすすめレシピ（まずはここから）

- ・塗り：生成り/クリーム（紙っぽさ）
- ・線（Stroke）：2-6px こげ茶（輪郭を強く）
- ・影（Shadow）：距離 3-8 / ぼかし 8-20 / 不透明度 40-70%
- ・アクセント：赤や青を“ 細い帯” や“ ポイント” にだけ使う（使い過ぎない）

完成イメージ（例）



4. ベベルの付け方 - 2つの実用パターン

結論：“文字だけ”にベベルを掛けたい場合は、背景帯と文字を別クリップにするのが一番安定します。

文字だけにベベルを適用する構成（図解）

レトロなベベルを「文字だけ」にかける最短構成

The diagram illustrates the layer structure for applying a bevel effect to text only. It shows three layers stacked vertically:

- V3:** テキスト（ベベル）. This layer contains the text with the 'Bevel Edges' effect applied. A red box highlights the text and the effect name.
- V2:** 背景帯（四角形）. This layer contains the background bar.
- V1:** 映像. This layer contains the video image.

ポイント：背景と文字を別クリップにすると、ベベルが背景に乘らず綺麗です。

パターンA：エフェクト「ベベルエッジ」で作る（速い）

- 1) 文字クリップを選択（背景帯のクリップではなく）
 - 2) [ウィンドウ] → [エフェクト] を開く（見当たらなければ）
 - 3) 検索欄に「ベベル」と入力し、ベベルエッジ（Bevel Edges）を探す
 - 4) 文字クリップへドラッグ&ドロップ
 - 5) [エフェクトコントロール] で厚み/強さ/光の角度を調整
- まずは次の範囲から微調整すると“レトロな立体感”が出やすいです。

項目	目安
厚み（Thickness）	2-4
強さ（Intensity）	40-70%
光の角度（Light Angle）	120度前後（左上がハイライトになりやすい）

注意：同一グラフィック内に背景帯が入っていると、背景にもベベルが掛かる場合があります。背景帯は別クリップにしておくと安心です。

パターンB：疑似ベベル（レイヤー複製）で作る（綺麗・安定）

エフェクトを使わず、テキストを複製して“厚み”を作る方法です。

- 1) 文字レイヤーを複製（Alt+ドラッグ、またはコピー&ペースト）
- 2) 下の文字を右下へ2-4pxずらし、色を濃くする（影+厚み）
- 3) 上の文字にStroke（2-6px）と軽いShadowを付ける
- 4) さらにレトロにしたい場合：上文字をもう1枚複製して左上へ1pxずらし、薄い色でハイライトにする

最終チェック（書き出し前）

- ☐ 背景帯と文字はSafe Margin内に収まっている
- ☐ 文字は短く、行数は2〜3行まで
- ☐ 線（Stroke）と影（Shadow）で可読性が確保できている
- ☐ ベベルは“強すぎない”方がレトロに見える（厚みは2-4から）

5. おまけ：サイドテロップをスッと出す（スライドイン）

「位置（Position）」にキーフレームを打つだけでOKです。

- 1) テロップのクリップ（文字またはグループ）を選択
- 2) [エフェクトコントロール] → [モーション] → [位置] のストップウォッチをON
- 3) 0秒：画面外（左 or 右）に逃がす
- 4) 0.2-0.4秒後：定位置へ戻す

気持ちよく見せるコツ	目安
速さ	0.25秒前後（長くても0.4秒）
移動距離	帯の幅 + 20-40px くらい
影	動きがあるほど影を薄める（重く見えるのを防ぐ）

テンプレ化したい場合（任意）

作ったテロップを使い回すなら、[グラフィック] メニューからモーショングラフィックス テンプレート (.mogrt) として書き出す方法が便利です。編集可能テキストにしておくと、次回は文字を差し替えるだけで使えます。